

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
 プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 総合研究報告書

薬剤関連進行性多巣性白質脳症の治療

研究分担者：野村恭一 埼玉医科大学総合医療センター神経内科

研究要旨 Disease modifying drugs (DMD) 治療を行っている多発性硬化症の症例における薬剤関連進行性多巣性白質脳症 (progressive multifocal leukoencephalopathy: PML) の発生頻度について明らかとすることを目的とし、DMD を含む薬剤関連 PML について症例報告、文献レビューを行い、PML 診療ガイドライン 2020 のうち、「CQ4-3. 薬剤関連 PML の治療はどうするのか?」をまとめた。

A. 研究目的

Disease modifying drugs (DMD) 治療を行っている多発性硬化症の症例における薬剤関連進行性多巣性白質脳症 (progressive multifocal leukoencephalopathy: PML) の発生頻度について明らかとすることを目的とする。

B. 研究方法

DMD を含む薬剤関連 PML について症例報告、文献レビューを行い、DMD による再発予防治療を行っている多発性硬化症の症例における薬剤関連 PML の発生頻度、それにかかわる臨床的特徴について検討する。

(倫理面への配慮)

なし

C. 研究結果

DMD を含む薬剤関連 PML について症例報告、文献レビューを行い、PML 診療ガイドライン 2020 のうち、「CQ4-3. 薬剤関連 PML の治療はどうするのか?」をまとめた。以下が示された。

1) Natalizumab 関連 PML の治療：薬剤中止と血液浄化療法 (PP) が有効、2) Fingolimod 関連 PML の治療：治療は薬剤投与の中止、塩酸メフロキン、ミルタザピンによる有効性の報告がある、3) 無症候性 PML の段階で治療を開始することが望まれる、4) PP は免疫再構築症候群を来し、機能障害が増悪する可能性がある。

D. 考察

薬剤関連 PML に関連する DMD は、主に

Natalizumab、Fingolimod があり、いずれの場合も無症候性 PML の段階で治療を開始することが望まれる。無症候性 PML をより早期に診断するために、今後も症例の蓄積を通じて、薬剤関連 PML の臨床的特徴についての検討を要すると思われた。

E. 結論

DMD による再発予防治療を行っている多発性硬化症の症例における薬剤関連 PML の発生頻度、それにかかわる臨床的特徴が明らかとなり、PML 予防に寄与しうると思われた。

[参考文献]

1) Berger JR. Classifying PML Risk With Disease Modifying Therapies. *Mult Scler Relat Disord* 12:59-63, 2017.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 三浦義治, 小佐見光樹, 阿江竜介, 中村好一, 濱口 毅, 中道一生, 高橋健太, 鈴木忠樹, 高橋和也, 雪竹基弘, 野村恭一, 原田雅史, 三條伸夫, 船田信顕, 岸田修二, 西條政幸, 水澤英洋, 山田正仁. 日本国内発症進行性多巣性白質脳症患者の疫学調査と解析. 第

- 60 回日本神経学会学術大会, 大阪, 5.23, 2019.
- 2) 池田 桂, 中里良彦, 横山 立, 大田一路, 高橋一司, 石澤圭介, 野村恭一, 山元敏正. 自己免疫性溶血性貧血に対して低用量ステロイド内服中に発症した進行性多巣性白質脳症の 78 歳女性. 第 230 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 9.7, 2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし